

令和4年度鳥取県の「教育に関する大綱」（第二編）の評価について

1. 令和4年度大綱に掲げる指標の達成状況等

指標の達成状況は、76.4% (68/89) と、概ね成果を上げることができた。ただし、課題のある項目は依然低迷しており、引き続き改善に向けて取り組む必要がある。

<達成できた主な指標>

- ・英検準2級程度以上の英語力を有する高校生の割合
※中学生の指標は設定なし R4年度「英検3級程度以上の英語力を有する中学生の割合」34.6% (全国46位)
- ・高等学校での消費者教育の実施
- ・特別支援学校高等部（専攻科含む）卒業生の就職率（就職希望者に対する割合）
- ・学校の授業が分かる児童生徒の割合（中学3年／国語・算数）
- ・文化・芸術、スポーツ等の分野で、全国で活躍する児童・生徒数（全国3位以上）

2. 主な課題

(1) 目標を下回ったもの（C評価となったもの[目標に対して90%未満]） ※実績の()は前年度数値

○県立高校の魅力化

・県立高校（全日課程）の定員に対する入学者数の割合

〔目標〕全ての高校で70%を上回る 〔実績〕全日課程22校中14校が達成（同）

<今後の取組>

- ・各校が取り組むべき重点事項を定め、学力向上や資格取得の促進、地域や企業等と連携した教育活動の実施や国際バカロレア教育など、教育委員会・各校・地域が連携して、県立高等学校の魅力化や特色づくりの取組を行う。
- ・他県の県外生徒募集校と連携した大都市圏における県外生徒の募集活動を実施する。
- ・SNS等を活用した高校の魅力の情報発信を行う。
- ・学生寮の整備検討のほか、民間施設等を活用した県外生徒の受入環境整備を推進する。

○不登校問題 ※R3数値

・不登校の出現率（小、中、高とも目標値以下）

小〔目標〕0.4% 〔実績〕1.40% (1.19%)

中〔目標〕2.5% 〔実績〕4.48% (3.75%)

高〔目標〕1.2% 〔実績〕1.98% (1.64%)

<今後の取組>

- ・県と市町村が連携し、各市町村の実態や課題に応じた魅力ある学校づくりに係る取組をより一層進める。
- ・出かけるセンター（学校訪問型）研修や校長会等において、不登校支援に関するガイドブックの内容について周知し、要因・背景の見立てや児童生徒理解に基づいた適切な支援を早期に行うことの重要性について助言する。
- ・教員とスクールカウンセラーとの協働による心理教育のさらなる推進を図る。
- ・学校でのスクールソーシャルワーカーの活用をさらに推進するため、校長会や出かけるセンター（学校訪問型）研修等で職務内容の周知を図る。
- ・読み書きにつまずきがある義務教育段階の児童生徒に個別支援プログラムを実施する。
- ・ICTを活用した不登校の未然防止モデルを構築する。

○教職員の働き方

・時間外業務が月45時間、年間360時間を超える教職員数

小〔目標〕0人 〔実績〕月45h超：476.2人 (493.8人) 年360h超：1,053人 (1,122人)

中〔目標〕0人 〔実績〕月45h超：342.5人 (333.3人) 年360h超：652人 (637人)

義務〔目標〕0人 〔実績〕月45h超：32.2人 (25.0人) 年360h超：69人 (56人)

高〔目標〕0人 〔実績〕月45h超：67.3人 (60.3人) 年360h超：180人 (145人)

特〔目標〕0人 〔実績〕月45h超：19.1人 (9.5人) 年360h超：54人 (34人)

<今後の取組>

- ・「新鳥取県教育委員会学校業務カイゼンプラン」の各種取組を着実に推進させ、一層の働き方改革の推進を図るとともに、教員業務支援員の継続配置、業務の明確化と適正化、小学校高学年における教科担任制の導入と推進、共通学習用ツール等のICTの活用等による業務の削減、効率化を進める。
- ・令和5年度から令和7年度までが中学校休日部活動の地域移行の「改革推進期間」と位置付けられている中、本県における部活動改革を検討する。
- ・鳥取県部活動の在り方方針（運動部、文化部）に基づく部活動休養日や活動時間の遵守を徹底する。

○体力・運動能力・スポーツ

・**体力・運動能力調査における上位層の割合**（小5の男子女子、中2女子が目標値以下）

小5男	〔目標〕 42%	〔実績〕 32.4%	(31.1%)
小5女	〔目標〕 48%	〔実績〕 39.8%	(40.0%)
中2女	〔目標〕 66%	〔実績〕 55.7%	(66.4%)

<今後の取組>

- ・子どもたちが継続して運動する習慣を身につけるために、「遊びの王様ランキング」の活用を啓発していく。
- ・「授業が楽しい」と感じる児童生徒を増やすために、教員の指導力向上に努める。
 - 指導主事が体育、保健体育学習の研究会へ参加し指導助言を行う。
 - 学校体育講習会、教育課程研究集会を開催する。
- ・持久力、握力、腹筋力の向上させるための取組を実施する。
 - 体力向上推進計画書において、具体的な数値目標を設定する。
 - 「遊びの王様ランキング」において、新種目を追加する。（「みんなで3分間20mリレー」「1分間上体おこし王」）
- ・柔軟性を向上させるためにワンミニッツ・エクササイズ啓発パンフレットを配布し、目標となる数値を具体的に示す。（一人あたりプラス3cm）

(2) 全国学力・学習状況調査について

○学力調査の状況

・**国語・算数（数学）・理科の学力状況**

〔指標〕各教科ごとの県平均が全国平均を上回る

小6国語	〔実績〕 県64%	全国65.6%	県64%	全国64.7%
小6算数	〔実績〕 県62%	全国63.2%	県69%	全国70.2%
小6理科	〔実績〕 県63%	全国63.3%	—	—
中3国語	〔実績〕 県68%	全国69.0%	県63%	全国64.6%
中3数学	〔実績〕 県51%	全国51.4%	県56%	全国57.2%
中3理科	〔実績〕 県49%	全国49.3%	—	—

<今後の取組>

- ・学力向上に向けた中長期的な方向性と具体的な方策を示した「鳥取県学力向上推進プラン」を改訂し、全県で取組を推進する。
- ・学力向上推進プロジェクトチーム会議で外部有識者等から提案された助言や提言を参考に、市町村教育委員会と連携を図りながら取組を進め、全県展開を図る。
- ・鳥取県独自の「とっとり学力・学習状況調査」を県全体で実施することで、児童生徒の学力の伸びを把握し、成果と課題を明らかにするとともに、授業改善に向けてPDCAサイクルの徹底を図る。
- ・全国学力・学習状況調査作成に携わっている調査官等を招聘し、授業づくり研修会を実施することを通して、各学校における授業改善のさらなる徹底を図る。
- ・エキスパート教員の授業公開や授業動画を通して、学習指導要領の趣旨に沿った授業づくりのモデルを示し、各学校への周知徹底を図る。
- ・教員の指導力向上を図るため、Webサイトのコンテンツを整備し、エキスパート教員等によるモデル授業や研修の動画、各種資料等、授業改善についての資料を充実させるとともに、研修パッケージ等の校内研修向け教材を各学校で積極的に活用してもらうよう周知する。
- ・全県で算数単元到達度評価問題集と活用問題集を活用して、小学校の国語・算数の授業改善を図る。
- ・ICTをさらに効果的に活用した授業や児童生徒の情報活用能力の育成を図る取組等について授業公開等を通して県内に周知する。
- ・中学校の授業改善を推進するため、中学校定期考査研修会を国語・数学・英語で開催したり、中学校教育振興会の教科部会との連携を深める取組を行う。